平成１８年度第４回日本生物物理学会運営委員会議事録
日時：２００６年7月８日（土）１３：００～
場所：名古屋大学理学館５階５１４
出席者：美宅会長、木寺副会長、石森副会長、川戸、神取、諏訪、園山、出村、徳永、豊島、野地、原田、光岡、倭、由良各運営委員、難波 H18 年会実行委員長、桑島 H19 年会実行委員長、本間中部支部長、葛西 Biophysics 編集長、栗原委員、河合秘書

報告事項：
1　平成１８年度年会準備状況
ＥＡＢＳ＆ＢＳＪ２００６の準備状況に関する報告が、難波実行委員長からあった。Plenary Lecture およびシンポジウムの講演者とスケジュールを確定した。日本の得意分野である一分子測定やモータータンパク質に関するシンポジウムが少ないという意見があったため、柳田氏と難波実行委員長が関連するシンポジウムを新たに企画した。ポスターの申し込み件数は１０２７件（７月７日現在）に達し順調であるが、海外からの発表申し込みが少ない。海外からの発表申し込みを増やす努力を行っている。１１月１２日に行う市民向け講演会では、日本電子やオリンパスの顕微鏡デモを予定。沖縄県や那覇市の教育委員会、NHK 等マスコミの後援を受ける。費用の一部に学会の啓蒙費を使いたいとの申し出があり、認められた。助成金は３件内定。企業からの寄付金を含め、助成金・寄付金は目標額を達成。学生向けの旅費支援が可能になったので、近日中に募集を始める予定（８００万円を予定)。遠隔地での年会のため、ランチョンセミナーに関しては苦戦（２社のみ)。展示、広告に関しても、例年の半分にとどまっている。沖縄科学技術研究基盤整備機構や東アジア地域への販路拡大のための商機であることをアピールし、企業への協力を呼びかけるよう依頼があった。年会予算に関しては、支出が５０００万円規模になるが、それに見合う収入は確保できる見通しが立っている。会費未払いのまま登壇する会員をチェックする必要性があらためて指摘された。

2　平成１９年度年会準備状況
桑島年会実行委員長から、５月３０日に開かれた第一回年会実行委員会および準備状況に関する報告があった。桑島委員長が来年１月に岡崎統合バイオサイエンスセンターへ異動するため、年会実行委員長は川戸委員へ変更の予定。ポスター発表（約１０００件を予定）に加えて、一部口頭発表も行う。ポスターの中から数百件を選ぶ予定。ポスターと口頭発表の両方を行うと、会場費がかさみ財政を圧迫することになり、口頭発表の比率が大事なポイントとなるため、口頭発表の比率、選別方法については実行委員会でさらに検討を進める。ランチョンセミナーの収入は７５０万円を確保しないと赤字になる可能性があるとの報告に関し、経理担当運営委員より、運営面で利点の多い東京地区の年会では、赤字を回避するように実行委員の努力をお願いしたいとの意見があった。収入は現実的な数字で

あり、これにあわせて支出を考えれば良いという意見が川戸委員からあった。正会員の年会参加費の値上げについては年会実行委員会で今後検討し、それをもとに沖縄年会時の運営委員会で結論を出す予定。

３　出版委員会

欧文誌の現状について、葛西編集委員長から説明があった。今年の投稿はまだ５報のみ。沖縄年会の講演者に論文投稿を依頼した。Biophysics 誌 WG 担当の神取委員から、速報性を高めるため、オンライン編集を今年中に実現させる予定であることが報告された。葛西編集長のもとに４名の副編集長（石渡氏、美宅氏、曽我部氏、Tame 氏）を置く。沖縄年会の予稿集を Biophysics 誌の supplement として出版することを、予稿集に大きくアナウンスすることが必要であるとの意見が、出版委員会担当の木寺副会長からあった。来年度以降の年会予稿集の supplement としての出版については、改めて議論する。会員名簿を月末に発送予定。氏名掲載に関しては６割が OK、４割が拒否という状況。今後の名簿発行のあり方について再考の必要がある。

４　会誌編集委員会報告

会誌編集担当の由良委員より、第２回編集委員会に関する報告があった。会誌を PubMed に登録申請することに決定。編集委員長より、２色刷の導入が提案された。

５　学会 HP について

学会のＨＰを６月１日に大幅更新した。現在、維持・管理の方法を WG で議論するとともに、マニュアルを作成中。Google 検索のヒット率を上げるために、用語集の項目をつくる予定。高校生向けのページは外注。トップページを毎年更新することを検討中。会員へのメールニュース配信に関しては、内容、必要性、重要性を議論中。

6　男女共同参画・若手問題検討委員会報告

男女共同参画学協会連絡会の活動として、１０月に開催予定のシンポジウムへ参加を予定（参加費、資料代を学会が負担）。若手奨励賞への応募は２７名（７月７日現在）。昨年の方法にならい、１次選考委員長は木寺副会長、２次選考委員長は石森副会長が担当する。

7　生物科学学会連合報告

川戸委員より、生物科学学会連合第１６回連絡会議に関する報告があった。これまでは学会連合は談話会のような雰囲気であったが、学術会議へ各学会・分野の意見を上げるシステムの１つの組織として活動する必要性・重要性が高まっている。今後は、基礎生物学分野の意見をまとめ、学術会議に伝える取組みを強化する。代表は大森正之氏。国際生物学オリンピックの後援を積極的に行う。

8　物理チャレンジについて
物理チャレンジ２００６の概要について、光岡委員から報告があった。今後継続して行う場合、今後学会の担当者を決める必要がある。共催学会の１つとして関わることになる。

9　平成 19・20 年度委員候補者補充選挙結果報告
前回の運営委員会で承認された方法に基づき、年度委員候補者の補充選挙を行った結果が報告された。その結果、合計９７名の年度委員候補者が選ばれた。

10　平成 19 年度次期会長・平成 19・20 年度委員選挙結果報告
次期会長の選挙結果が報告された。曽我部正博氏が選ばれた。各候補者の得票数は以下の通り。七田芳則氏：６０票、曽我部正博氏：８２票、難波啓一氏：７４票。年度委員の選挙に関しては、得票順に上位２５名が選ばれた。選挙結果に関して、委員の女性比率を上げること、特定の人に集中しないように配慮するようにすべきとの意見があった。

11　平成１７年度会計監査報告
児玉孝雄氏、柳田敏雄氏による、平成１７年度収支決算報告書および同特別会計「会誌電子化将来事業特別会計」に関する監査結果が、美宅会長より報告された。

12　支部報告
東北支部の決算報告と四国支部立ち上げ準備に関して、美宅会長から紹介があった。支部の役員名を HP に掲載する等、各支部の顔を見せるような努力を望む意見があった。

13　共催・協賛・後援依頼について
生物物理学会が協賛した研究会等について、美宅会長から報告があった。

14　科学者倫理への取組について
美宅会長が、学術会議から出された「科学者の行動規範（暫定版）」を紹介した。生物物理学会として独自のものを作成する必要はないが、暫定版に関して意見があれば学会として学術会議に伝える。

15　Asia and Pacific Workshop on Biological Physics
シンガポールで開催されたワークショップに関する紹介が、桑島氏よりあった。主催者は毎年この会議を続けていく意向で、日本の生物物理学会と連携を図りたいとのことであった。ＥＡＢＳとの連携も含めて、難波氏に対応をお願いした。

議　　題：

１　平成１９年度予算案

経理担当の徳永委員から、平成１９年度予算案の説明があった。広告収入はこれまで６００万円の実績があったが、減少傾向にあり、注意が必要。広告収入の減少分は、年会のランチョンセミナーでカバーできている状況。会誌のＡ４サイズおよび二色刷への移行に伴う費用が認められた。これまで特別会計から支出してきた電子化に関係する項目を、一般会計に移すことに決まった。啓蒙事業費に関しては、ＨＰの活用等により、３０万円に減額。来年度は男女共同参画学協会連絡会の幹事学会を引き受けることを考慮して、男女参画・若手推進事業費は５０万円に増額。ＨＰ管理費は６５万円。論文数が増えることを期待して、会誌電子化費用を９０万円に増額し、会費出版費に組み入れる。出版費は欧文誌と邦文誌に区分する。特別会計への振替は、次年度繰越金が１０００万円になるように金額を調整する。

２　若手夏の学校援助金について

若手の会から、夏の学校開催に関して２０万円の補助依頼があった。２０万円の算出根拠が不明確であるため、若手の会会長への問い合わせ、最終判断を美宅会長に一任した。なお、夏の学校の講師が交通費を受け取っていることが明らかになった。夏の学校の趣旨を理解の上、無料で講師を引き受けてもらえるようにお願いすべきだとの意見が多数出た。

３　平成２０年度年会開催地について

運営委員に対するアンケート結果に基づき、九州地区での年会開催を打診したところ、引き受けて下さることになった。現時点では年会実行委員長は未定。窓口は山縣ゆり子氏。

４　男女共同参画学協会連絡会について

栗原委員から、男女共同参画学協会連絡会についての説明があり、次期幹事学会として生物物理学会に依頼があったことが報告された。連絡委員会の委員長に美宅会長、副委員長に石森副会長と栗原委員という体制で引き受けることが提案された。男性が会長をやることの意義、生物物理学会のプレゼンス、学会のこれまでの取り組み等を考慮して、学会として男女共同参画活動にさらに力を入れるためにも、引き受けることになった。

５　若手奨励賞審査委員の選出

選考委員の人選は、委員長が案を作成後、後日議論する予定。

６　年会剰余金の使途について

石森副会長が作成した「年会剰余金の使途についての覚書」（案）を検討した結果、承認された。

７　科学技術政策研究所の調査における回答候補者の推薦

科学技術政策研究所から依頼された「わが国の各分野において第一線で活躍されている研究者等」の推薦方法について議論した結果、分野別専門委員から選び出すことになった。今後副会長が候補者を検討し、決定することとした。

８　学会秘書の待遇等について

学会会長秘書の待遇に関する現状が報告され、承認された。今後、会長秘書の待遇については運営委員会で承認することを確認した。

９　その他

学生会員の資格確認の改善方法を議論した。毎年４月に学生の身分を確認することになった。方法の詳細については河合秘書がメディシュに確認後、庶務担当の原田委員が文書化する。